

参考

**会員事業場における労働災害（休業4日以上）
－ 12次防と13次防の比較 －**

13次防（平成30年～令和4年6月までの5年間）における休業4日以上の死傷者は、1年平均で142.6人発生しており、12次防（平成25年～同29年までの5年間）の1年平均138.8人に比べ3.8人増加しています。

一方、死亡災害を見てみると、13次防では、4年6か月間で16人が亡くなっていますが、1年平均では3.2人と、12次防の1年平均4.0人に比べ0.8人減少しています。

(単位：人)

区分	H25	H26	H27	H28	H29	12次防 平均	H30	R1	R2	R3	R4	13次防 平均
	死傷	151	158	141	117	127	138.8	125	156	145	137	150
死亡	3	2	5	7	3	4.0	3	7	4	1	1	3.2

**港湾労働安全強調期間（7月～9月）に発生した死亡災害（会員事業場）
－ 12次防・13次防 －**

12次防及び13次防期間中、港湾労働安全強調期間（7月～9月）に発生した死亡災害は、下表のとおり12次防期間中4人、13次防期間中5人である。

発生日時		発生場所	性別	年齢	雇用形態	職種	事故の型	起因物	概要		
平成25年	8月13日 (火) 16:20頃	本船デッキ	男	48歳	日雇	作業者	はさまれ、巻き込まれ	揚貨装置	岸壁に仮置きしていたコンテナ(40ft実入り22t)を揚貨装置でデッキのツイストコーン上に積み戻す作業中、本船の揺れと途上のスタンションで引っ掛けかりが外れた反動でコンテナが振れ、被災者がオイルタンクとの間にはさまれた。		
	8月28日 (水) 8:40頃	艤	男	50歳	常用	玉掛け者	はさまれ、巻き込まれ	揚貨装置	本船揚貨装置を使い、艤上にあるコイル(直径約1.3m、重量約8t)2個を運搬するため玉掛けを行い地切りしたところ、コイルが振れ、玉掛け者がコイルと艤壁面の間にはさまれた。		

平成26年	9月1日 (月) 15:15頃	本船デッキ	男 42歳	日雇	作業者	激突され	揚貨装置	船倉から原木（長さ約12m, 直径約70cm, 重量約2t）を揚貨装置により荷揚げ作業中、約10本の原木をクラブバケットでつかみ巻き上げたところ、原木が回転したため、船倉上部で合図を行っていた被災者が原木の端に激突された。
平成29年	9月15日 (金) 14:10頃	倉庫土場	男 55歳	常用	作業監督者	はさまれ、巻き込まれ	フォークリフト	荷役作業に伴うトレーラー等の車両の誘導業務を行っていた被災者が、待機中の移動式クレーンに構内へ進入するよう伝えに行った後、荷降ろしのために向きを変えようと旋回していたフォークリフトの後部と接触し、倒れたところを当該リフトの後輪でひかれた。
平成30年	7月20日 (金) 8:40頃	船艙内	男 21歳	常用	玉掛け者	飛来、落下	移動式クレーン	埠頭に接岸した内航船の船倉で、岸壁に設置したクローラクレーン（吊上げ過重150t）を用いて7本組に結束したH形鋼（1本：長さ6m, 重量約84kg）を3束にまとめて荷揚げ作業中、吊り上げていた鋼材が落下し、吊荷の下にいた被災者に当たった。
	8月15日 (水) 20:38頃	石炭船積岸壁	男 60歳	常用	監視員	おぼれ	その他の乗物	被災者が岸壁において、石炭の運搬船接岸に伴う係留作業中、ヒープラインを拾おうとした際によろめいて海中に転落した。
令和元年	8月14日 (水) 12:10頃	ターミナル内	男 44歳	常用	運転者	転倒	ストラドルキャリアー	ストラドルキャリアーによりコンテナの運搬作業中、荷を積載していない状態でストラドルキャリアーが右折したところ、ストラドルキャリアーごと転倒した。
令和2年	8月19日 (水) 9:00頃	着岸コンテナ船内	男 29歳	常用	ラッシャー	墜落、転落	その他の仮設物、建築物、構築物等	コンテナ船内のコンテナをガントリークレーンで地上に降ろす作業中、コンテナ上に残ったスタッカーを回収しようとしていた被災者がステージから5.2m下の本船デッキに墜落した（推定）。
令和4年	7月13日 (水) 17:50頃	着岸コンテナ船内	男 52歳	常用	船内作業者	飛来、落下	玉掛け用具	船上からフラットコンテナ(19.8t)にトレーラーシャーシ(16.2t)を積載した荷をガントリークレーンで移動させていたところ、荷を吊っていたワイヤーの先端が外れ3点吊りになったことにより、トレーラーシャーシが落下して被災者に激突した。

※ 上記の死亡災害については、協会ホームページの中の「災害データ検索 versionⅡ」から、さらに詳細な情報を得ることができます。